

症例② 90歳代の女性, 認知症, 腰仙骨部の多発重度褥瘡 (図2) (文献^{23, 24}より)

2006年11月(開始日): 黒色期, D5e2s4i2G5N2 (20点); 2002年版DESIGN[®]評価。周辺の発赤, すなわち炎症・感染を伴う硬い黒色壊死組織(エスカー)を認めたため, 炎症・感染に対しては抗菌薬を全身投与し, エスカーの自己融解を促すためにプラスチベース[®]軟膏を塗布し, 食品包装用ラップフィルム(塩化ビニリデン製)で覆う, いわゆる「プラスチベース[®]軟膏-ラップ療法」を開始しました。また当初から亜鉛などの微量元素なども考慮し, 筆者の開発した「S式褥瘡栄養評価リーダーチャート(S-DNARC)」²³⁻²⁵による評価をもとに, 十分な栄養管理・介入に努めました。

2週間後: 黒・黄色期, D3e2s4i1G3N2 (15点); 同療法を継続しました。
4週間後: 黄色期, D3e2s4i0g1N1 (11点); 硬い黒色壊死組織が消失したのでプラスチベース[®]軟膏を中止し, 「ラップ単独療法」に変更しました。
6週間後: 赤色期, d2e1s4i0g1n0 (8点); 軟らかい黄色壊死組織(スラフ)は消失し良性的肉芽組織が創全面に増殖してきました。ラップ療法を連日継続しました。
10週間後: 白色期, d2e1s3i0g1n0 (7点); 上皮化が進み白色期に入ってきました。同療法を継続。一貫して食品包装用ラップフィルム(塩化ビニリデン製)を用いる, いわゆる「ラップ療法」の著効例です。



図2 90歳代の女性, 認知症, 腰仙骨部の多発重度褥瘡(文献^{23, 24}より)

- A: プラスチベース[®]軟膏-ラップ療法を開始 黒色期
- B: プラスチベース[®]軟膏-ラップ療法 黒・黄色期
- C: ラップ単独療法に変更 黄色期
- D: ラップ療法を継続 赤色期
- E: ラップ療法を継続 白色期

「医療用開放性ウェットドレッシング材」を用いた代表的な3症例

症例③ 80歳代の女性, 脳梗塞・認知症, 仙骨部巨大感染褥瘡 (図3) (文献^{25, 26}より)

2009年2月(開始日): DU-E6S15I3G6N6p0 (36点); 2008年版DESIGN-R[®]評価。感染を伴い豊富な壊死組織と著明な滲出液を認め, 創サイズ14.0 cm × 8.0 cmと巨大であるため, 抗菌薬の全身投与を開始し, 「プラスチベース[®]軟膏-モイスキンパッド[™] (1530) 療法:P-MOI.1530 (15 cm × 30 cm) 療法」を開始しました。治療開始翌日: 多量の滲出液を吸収したモイスキンパッド[™]を示しています。

6か月後: D3-e1s8i0g1n0p0 (10点); 創サイズは5.0 cm × 2.8 cmと縮小し, 創には壊死組織なく, 良性的肉芽組織が増殖しました。滲出液も少なく, ラップ療法に変更しました。
6か月後: いわゆる「ラップ療法」を適用しているところです。
11か月後: 治癒しました。「モイスキンパッド[™]後ラップ療法」の著効例です。



図3 モイスキンパッド[™]後ラップ療法 (文献^{25, 26}より)

- A: プラスチベース[®]軟膏-モイスキンパッド[™] (1530) 療法を開始。感染を伴う豊富な壊死組織あり, 巨大創 (14.0 cm × 8.0 cm)
- B: プラスチベース[®]軟膏-モイスキンパッド[™] (1530) 療法。多量の滲出液を認めた
- C: 創は縮小 (5.0 cm × 2.8 cm: 赤色期), ラップ療法に変更
- D: ラップ療法
- E: 治癒

症例④ 60歳代の男性, てんかん性精神病, 仙骨部ポケット形成感染褥瘡 (図4) (文献²⁶より)

2008年12月(開始日): DU-E6s12I3G6N6p0 (33点); 褥瘡感染を認め, DTI (deep tissue injury: 深部組織損傷) が疑われました。クレブシエラ肺炎桿菌を分離したので細菌薬剤感受性試験結果に基づいて抗菌薬(SBT/CPZ+AMK)を約1週間全身投与し, 「プラスチベース[®]軟膏-モイスキンパッド[™] (1515) 療法:P-MOI.1515 (15 cm × 15 cm) 療法」を適用しました。1週間後: 多量の滲出液を吸収したモイスキンパッド[™]を示しています。

3週間後: D4-E6s6i0G4N6P24 (46点); 感染による大きなポケットを形成しました。
8週間後: D3-e1s3i0g1n0P9 (14点); 創・ポケットのサイズも随分縮小し滲出液も減少したので, いわゆる「ラップ療法」に変更しました。
12週間後=ラップ療法開始4週間後: D3-e1s3i0g1n0p0 (5点); ポケットは閉鎖し創もほぼ閉鎖に向かっています。「モイスキンパッド[™]後ラップ療法」の著効例です。



図4 モイスキンパッド[™]後ラップ療法 (文献²⁶より)

- A: プラスチベース[®]軟膏-モイスキンパッド[™]療法を開始。クレブシエラ肺炎桿菌を分離。SBT/CPZ+AMK (全身投与)
- B: モイスキンパッド[™] (1515) 療法。多量の滲出液を吸収
- C: モイスキンパッド[™] (1515) 療法。大きなポケットを形成
- D: ポケットは縮小, ラップ療法に変更
- E: ポケットは閉鎖, 創はきわめて縮小した